

もっと知ろう「飯塚国際車いすテニス大会」

〈1〉 飯塚市の概要

飯塚市は、福岡市、北九州市、久留米市に次ぐ県内4番目の人口を擁する市です。面積約214km²、人口約13万人（平成29年（2017年）1月）、福岡県のほぼ中央に位置しています。盆地を形成しているため、夏冬、昼夜の気温差がかなりあり、内陸性気候の特徴を有しています。

江戸時代は長崎街道の宿場町として、明治から昭和にかけては筑豊炭田の中心地として栄えました。昭和30年代のエネルギー革命によって石炭産業は衰退し、炭鉱は閉山され、人口流出が進みましたが、昭和41年（1966年）に近畿大学が、昭和61年（1986年）に九州工業大学がキャンパスを設置し、飯塚は学生の街の色彩を帯びるようになりました（近畿大学は産業理工学部を、九州工業大学は情報工学部を設置）。

平成18年（2006年）3月26日に飯塚市、穂波町、筑穂町、庄内町、颯田町の1市4町が合併し、新「飯塚市」となりました。新たに誕生した飯塚市は福岡県中央地域の中心都市として、「人が輝き まちが飛躍する 住みたいまち 住み続けたいまち」を目指して、産業・学術・文化・人権・自然が共生するまちづくりに取り組んでいます。

〈2〉 飯塚国際車いすテニス大会の歩み

飯塚で国際車いすテニス大会が開催されるようになったきっかけは、労働福祉事業団（現・独立行政法人労働者健康安全機構）総合せき損センターにおいて、脊髄損傷者のリハビリとして車いすテニスが導入されたことです。

飯塚市に「総合せき損センター」が開設されたのは、昭和54年（1979年）のことです。かつて炭鉱業で栄えた飯塚には炭鉱災害等で脊髄を損傷した患者が多くいました。総合せき損センターは、脊髄損傷の専門病院として救命救急の初期治療から患者の社会復帰まで一貫した医療を行っています。

昭和57年（1982年）に車いすテニスが日本で紹介されると、いち早くそれを採り入れ、患者のリハビリに導入しようとしたのが、総合せき損センターのソーシャルワーカーでした。翌58年（1983年）には総合せき損センターの体育館において本格的に車いすテニスの練習が始まります。福岡県だけでなく、隣県の山口、佐賀、熊本などからもはるばる練習に来る人も出てきました。

昭和59年（1984年）に九州車いすテニスクラブが発足し、翌60年（1985年）に九州車いすテニスクラブと地元・飯塚ロータリークラブの主催により、第1回の飯塚国際車いすテニス大会が開催されました。第1回の大会には海外から14名の選手が参加、大会名誉会長として故三笠宮寛仁親王殿下にご臨席いただきました。飯塚ロータリークラブの全面的な協力と、地元のタクシー協会、ホテル、商店街、消防団、警察署、陸上自衛隊、高校など地元の様々な方面からの支援のお陰で大会を無事終えることができました。第1回目から国際大会を開催することになったのは、飯塚で練習していた選手がハワイの大会に出場し、ハワイで車いすテニスをされていた日本人と知り合ったことがきっかけでした。アメリカをはじめ各国の車いすテニスプレイヤーに人脈を持つその方から、今が世界の車いすテニスの成長期であることなど世界の車いすテニス事情を聞き、

飯塚でも即国際的な大会を行うことができると確信したのです。

第1回大会が盛会裡に終了し、その余韻が冷めやらぬうちに、選手たちから「大会を継続して開催してほしい」との要望が大会役員に寄せられました。第1回大会の共同主催者であった飯塚ロータリークラブからは「1回」という約束で全面的な協力を得ており、第2回大会を開催するには、ロータリーに替わるスポンサーが現れるか（見つけられるか）どうか最大の問題でした。幸いにして第1回大会の実績を認めてくれたいくつかの企業がスポンサーとなってくれることとなり、第2回大会開催の目処が立ちました。それ以降、官公庁、企業、各種団体、学校、そして個人の皆さんに至るまで、たくさんの人々が大会を支え、今日に至るまで毎年開催されています。

〈3〉 飯塚国際車いすテニス大会のグレード

1989年に国際車いすテニス連盟（I W T F）が発足し、同連盟はイギリスにある国際テニス連盟（I T F）の下部組織として認定されました。これにより車いすテニスの世界にも世界ランキング制度が設けられました。（I W T Fは1998年にI T F本体に組み込まれ、I T Fの車いすテニス部門となります。）

1990年の第6回大会で飯塚国際車いすテニス大会は世界ランキング認定大会に指定されました。2004年の第20回大会で飯塚国際車いすテニス大会はスーパーシリーズに格上げされ、世界4大大会の一つとなりました。2009年にはグラインドスラムが新たなグレードとして設けられたため、現在では6大大会の一つ。アジアでは最高峰の国際車いすテニス大会となっています。

〈4〉 飯塚国際車いすテニス大会のボランティア

飯塚国際車いすテニス大会は、毎回2,000名を超すボランティアが大会の運営支援に当たり、地域挙げてのホスピタリティーはI T Fにも高く評価されています。ボランティアの方々は、ボールパーソン、会場整備、輸送、メディカル、食事、通訳、駐車場誘導といった様々な仕事を引き受けており、この運営方式は「イヅカ方式」と呼ばれるようになりました。

また、陸上自衛隊飯塚駐屯地の隊員が、毎年、会場設営や選手の送迎などの支援を行っています。

〈5〉 スポーツ合宿の好適地・飯塚市

飯塚市には、筑豊ハイツ（温泉付き宿泊施設）や筑豊緑地公園（ウェルネスパーク）などが集積し、スポーツ合宿等に適した環境となっています。飯塚国際車いすテニス大会もこのテニスコートを用いて行われています。特にテニスコートは全部で22面あり、テニス合宿には最適の地です。

テニス以外にも、野球場、プール、球技場（サッカー、ラグビー）、多目的グラウンド、芝生広場、クライミングウォールなど様々な施設が整っています。

また、筑豊ハイツの温泉は天然のラジウム泉で大浴場、ジャグジー、サウナ、水風呂等設備も充実。64名様まで宿泊可能です。

福岡空港から施設までは車で約60分、博多駅から最寄りの新飯塚駅までは快速で40分と、交通の便も良好です。